

2023 年度は、筆記試験は実施せず、主に 3 つの小レポートの内容を踏まえて成績評価を行った。これは、レポートの執筆を通じて授業内容を深く理解することができたという、2022 年度授業者からのコメントを踏まえた措置である。レポートはいずれも、教員が提示した「問い」について、授業内容を踏まえて、履修者の考えを 2,400 字程度で論述するものであった。スケジュールとテーマ、点数配分は以下の通りである。

レポート 番号	課題提示日	テーマ	締切	DVD 視聴期間	点数配分
1 (*1)	4/20	国家間の格差がなぜ生じたのかについて、その時点での自分の考えを述べる	5/11	N/A	あわせて 31 点
	5/18	DVD 視聴を踏まえ、現在の国家間の格差が生じた理由について、各自の考えをまとめる	6/15	5/18～6/15	
2	6/22	DVD 視聴を踏まえ、新自由主義に基づく国際開発援助政策を如何に評価すべきなのかについて、各自の考えをまとめる	7/20	6/15～7/20	31 点
3	7/6 (*2)	全 14 回分の授業の内容を踏まえ、国際開発援助政策の基礎となっている考え方について、各自の考えをまとめる	8/10 (*3)	N/A	33 点

*1：1 つのレポートを、2 回に分けて書く（2 回分合わせて 2400 字程度の分量）

*2：14 回目までの授業内容を踏まえて執筆する必要があるが、過去の授業回の内容を確認するなど、受講生が早目に準備に取りかけられるように、前倒しで課題を提示

*3：成績登録期間を考慮しつつ、学生がレポートに割く時間を多く取れるようになるべく遅く設定

3 つの小レポートに加えて、全 14 回の授業を通じて、特に興味を持ったこと・新たに学んだことについて、200 字程度でコメントを用意し、第 3 回課題レポートと合わせて提出するよう求めた。こちらについては、条件に合致する形で提出する限りにおいて、5 点を必ず付与した。

各レポートの質問の趣旨や、その質問に答えるために求められる知見については、レポート課題を提示した授業回（予習・復習用の解説動画の内容を含む、以下同じ）において十分に説明してあるので、ここで敢えて説明することはしない。換言すれば、授業に出席し、指示に従って予習・復習をこなせば、出題の趣旨に即したレポートが執筆できるようになっている。

また、受講生が、正しく出題意図を理解し、授業で学んだ内容を適切に援用してレポートを用意できたかどうかを確認できるよう、希望者には、Zoom を用いる形で、提出期限後にフィードバックを与えることとした。2023 年度は希望者はいなかったが、このような、自分の理解度を確認できる機会を是非活用してほしい。

第1回・第2回課題レポートについては、問いで要求された各点に沿った形で、DVD および該当する授業回から入手できる情報を、的確に整理できていたものが多かった。しかしながら、本授業全体の内容を踏まえて執筆することが求められている第3回課題レポートについては、複数の授業回にまたがる形で扱われた重要な論点(こちらも複数に及ぶ)を、相互に関連づけることができていないものが散見された。出題する立場としても、第3回課題レポートはそれなりに難しい課題であると位置づけていたため、別途用意した解説動画内で、どの授業回のどの点に留意すべきか示唆していたことを鑑みると、受講生側がどこまで求められた事前準備に時間を割いたのかという点に、疑問が生じる。

なお、受講者自身の見解については、「依拠すべき立場」があらかじめ決まっているわけではない。根拠を持って提示されているかどうかが重要となる。その際、ある立場を選択すると、自ずと関連する論点においてもどの立場を選択するのかが決まってくるはずである。しかしながら、そのような意味での「議論の一貫性」が維持できていたかどうかという点については、疑わしいものもあった。断片的な知識の寄せ集めに陥ることなく、体系的に理解することを意識してほしい。

授業のコメントについては、どのような内容に受講生が関心を持ったのかが率直に書かれており、教員としても興味深く読んだ。